

編集後記

ドイツで開催されているサッカーワールドカップ（2006年FIFAワールドカップ）に日本中が盛り上がっていますが（原稿を書いている日がブラジルと日本との対戦日、6月22日、です）、強豪チームに関連する映像の中でひときわ目を引くのが幼少時から路上サッカーに興じる子供たちの姿です。日本人が欧州のチームで活躍しワールドカップに出場できるようになった背景にも少年サッカーチームの広がりがあるでしょう。翻って足下を眺めると、科学を志す若者が少ないと言われて久しくなります。小中学校へ出張授業、高校生への開放講座、early exposureへの協力等々、我々研究者も微力ですが裾野の広がりを目指しています。しかし、若者の関心を高めるには、その分野がどれだけ魅力的かが重要なファクターであり、科学が魅力的に思えるには、我々がどれだけ世界に通用する研究を発信できるかにかかっているとも言えましょう。世界への一歩は地道な努力からの一歩であり、本北海道医療大学歯学雑誌が若い研究者達の世界への第一歩となることを切に願いつつ、またサッカー観戦を続けるのであります。

話は変わりますが、これまで本誌の編集部は人手不足のため文献や文献の表示法などのチェック体制が不十分でした。本号から専門にチェックをしてくれる協力者のお陰で、より投稿規定に沿った掲載が可能となりました。チェックをすると論文引用や記載方法などの問題点が一論文中に平均10箇所近く見つかります。外国などの雑誌の場合、投稿者自身のチェックをより一層厳しくすることが必要です。また論文査読をして頂く先生方にもより一層厳密な査読をお願いしてあります。学内誌という甘えを省き、本誌への投稿が世界的レベルの雑誌への修練の場となることを願っています。

最後となりましたが、本号には解説として理工学教室の大野弘機教授がご自身の研究のまとめを総説風を書いて投稿されました。従来の総説だけでなく、今後このような解説も多くしていきたいと思っておりますので御投稿をよろしくお願ひします。